

津波避難3原則 ①想定にとられない②命を守るために最善を尽くす③周りが逃げなくても逃げる

防災学習と避難訓練

11月は湯浅広川消防組合の方々に「火災」についての学習と救急救命体験・消火器の操作体験をさせていただきました。

まず、身近に潜む火災についてお話を伺いました。和歌山県や全国の統計より火災原因で多いのは、たばこや電気系の出火ということでした。その中でも特に気になったのが、コンセントのさしっぱなしで周りにほこりが付きそこから出火するという話を聞き、実験映像を見て自分の家でも可能性があると感じた方がおられるのではないのでしょうか？また、今の電化製品は電気容量が大きく2種類の電化製品を使うと電気容量を超えヒューズが飛んでしまうこともあります。「自分の気の付かないところで」というのがとても怖いと感じました。各家庭で点検してみましょう！



昨年もおこなった救急救命の心臓圧迫の体験や AED の性能や使い方も実技を通して学びました。実際、そのような場面に遭遇することはないと思うけれど、万が一の時に対応できるよう何度も練習しておくことが大切だと思いました。

そして公民館の外に出て消火器を使った訓練も行いました。昨年も経験しているけれど「ピンを抜く」「噴射口を火元に向ける」「レバーを握って消火」と簡単なことだけど、焦るとピンを抜き忘れたり、噴射口を火元に向けないままレバーを握ったりとうまくいかないこともあり、よい体験学習になりました。



最後に、湯浅警察の方々も来てくださる中「まもる君」まで避難する訓練を行いました。足の悪い方は車いすを使いながら全員無事避難。なんと耐久大学生の歩くのが早いこと、学生たちの元気さに圧倒されました。最後に人数確認をして避難訓練を無事終えました。

「安全に、安心して暮らす」「万が一に備える」そのためには、自分自身日ごろから防災や避難についてよく考えておくことと、何度も繰り返しシュミレーションし、避難経路や避難場所など家族で確認しておくことが大切だと思いました。

防災のキーワード

災害はいつも想定外！！



楽しいレクリエーションサロン

和歌山県レクリエーション協会

岩崎 哲 先生

12月の講座では、レクリエーションを中心とした講座で、脳を使うことや指先を使うことで脳を活性化することにより、認知症などの予防につながるお話を伺いました。

岩崎先生は現在和歌山市立中の島幼稚園の園長先生ということもあり、軽妙な語り口と童謡などの歌に合わせて指遊びなどして楽しく過ごしました。



全員が参加した「30秒間で大豆を箸でつかんで移動させることができるか」というゲームではみんな一生懸命挑戦しました。

つるつる滑る豆を上手につかんで、横の皿に移していきました。少ない人で10数個、一番多かった林さんで31個。皆さん器用な箸使いに驚きました。

言葉遊び、歌や音読、片足立ち、豆つかみなど心を合わせたり、「一番は誰だ」のゲームをしたりして心も体も健康で令和の時代も頑張っていきましょう！



ねりんピック紀の国わかやま2019の福祉・生きがい関連イベント『美術展』が11月9日から12日にかけて行われ、工芸の部において94作品の中から堀 順子さんの作品「旅の思い出」が金賞に選ばれました。

おめでとうございます！！